

特定非営利活動法人ぴーす

平成 27 (2015) 年度 事業報告書



目次



| | |
|---------|---|
| 1 ページ～ | はじめに ぴーすの事業・活動 ～役割分担の表～ |
| 2 ページ～ | ぴーすの各事業の説明 |
| 3 ページ～ | 子ども・本人が、利用・参加するもの ～育てる・高める支援～ ■主に、幼児期の子どもたちが参加したもの ■主に、学齢期の子どもたちが参加したもの ●生活力や社会性をアップさせるための活動 ●趣味・余暇の力を育てる活動 ■18歳以上の本人も参加するもの |
| 15 ページ～ | 保護者・支援者が、利用・参加するもの ～寄り添う・高める支援～ ■保護者・支援者向けに届けたもの |
| 18 ページ～ | 相談に対応するもの ～寄り添う・つなげる支援～ ■相談に対応するもの |
| 20 ページ～ | 情報を提供するもの ～伝える・広げる支援～ ■主に、来所する方への情報提供 ■主に、インターネットでの情報提供 |
| 23 ページ～ | 啓発や連携をするもの ～広める・つながる支援～ ■講演などへ講師を派遣したもの ■他機関・団体との協働、協力したもの ■会議や集まりの一員として参加したもの |
| 27 ページ～ | その他 ■ぴーす職員が受講等した研修 ■NPO 法人ぴーすの会議 |
| 29 ページ | 平成27年度 年間利用者実数・延べ数・活動数等 集計 |

平素はピーす活動への温かいご支援を賜り、心より感謝を申し上げます。平成27年度（第11期）の活動報告書が完成いたしましたので、お届けいたします。

今回の報告書ですが、まとめ方をこれまでと違う形にしました。前年度までは1つ1つの事業・グループで報告を作成し、それを順番に掲載する形をとっていましたが、ここ数年で活動が幅も広がり、その分ピーすの全体像がつかみにくい報告になっていました。そこで今回は『参加や利用をする人たち』の目線で「誰のために何をしているか」がわかるよう、報告の並べ方を工夫してみました。この工夫で、少しでもピーすの全体がわかりやすくなっていたら、大変うれしいです。

活動が複雑になっている要因。それは平成24年度に『国レベルの障がい児支援のありよう』が大きく様変わりし、また『堺市の相談支援の再編』もあり、障がい児が利用できるサービスや相談の形が年々変化したためです。ピーすはそれに合わせ事業の種類を増やし、多種多様な利用者の声に応えるため活動の幅を広げてきました。結果、制度変更より4年たった今のピーすは、とても複雑な活動形態になっています。しかしそれは「一人ひとりのニーズに応えたい!」という想いの実現でもあります。

私が子育てをしていた20年前に比べると、現在の障がい児支援の数の多さ・幅の広さは目を見張るものがあり、それだけ社会が良くなったとも言えます。しかし反面、支援の数・種類が増えるに従い、今度は「どの種類が自分に合っているのか」「たくさん情報がすぎてよくわからない」という問題が出てきました。現在の保護者は「さまざまな情報を正確に把握し、今の段階で必要な支援を選び、子どもにとって良い環境を作る」ことが必要になっていますが、それを保護者だけ行うのは難しいのが現状です。さらに、数・種類が増えるということは「障がい児に関わる支援者」が増えるということ。その中には、障がい児支援の独特の難しさに悩む人も多くいます。その姿は、以前の「子育てに悩む母親たち」に似ています。

そんな中で、平成27年度もピーすは「保護者の傷ついた心をケアし、子育てへの夢を取り戻してもらおう支援」「支援者の悩みに寄り添い、障がい児と暮らす楽しさを見つけてもらう支援」を大切に活動しました。その1つ1つを担当スタッフより報告させていただいております。今回も大変分厚い内容になっておりますが、ご一読いただくと幸いです。

保護者・支援者のエンパワメントを高めることが、エンドユーザーである『子どもたちの成長』につながるという想いを抱き、今後も障がい児の支援活動に精進する所存です。変わらぬご支援・ご協力のほどをお願いいたします

平成28年6月

NPO 法人ピーす 理事長 小田多佳子

| | 本人が利用 | 家族が利用 | 相談対応 | 情報提供 | 啓発・連携 |
|-------------------------|-------|-------|------|------|-------|
| 地域活動支援センター ばれっと | ○ | ○ | ○ | ◎ | ◎ |
| キッズサークル ぷらむ | ◎ | ○ | △ | | |
| ピーすの児童デイ ばんだ・ほんた・びころ | ◎ | | ○ | | |
| ピーすの支援 プランセンター | | | ◎ | ◎ | |
| 生活支援グッズのお店 ぼっしゅ | △ | ○ | ○ | ◎ | ◎ |
| ピーすの あい・すてーしょん | ○ | ○ | ◎ | ◎ | |

■■ 各事業の説明 ■■

<地域活動支援センターぱれっと>

事業形態 障害者総合支援法 地域活動支援事業 堺市委託事業『地域活動支援センター生活支援型Bタイプ』

対象 0歳からの全年齢の障がい児者及び家族

実施場所 大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-32

実施日時 火～金：10：30～16：30 土曜日：11：00～17：00

実施内容 ①日常生活支援 ②生きがい仲間づくり支援 ③地域関係機関との連携 ④プログラム（グループワーク）支援

<キッズサークル ぶらむ>

事業形態 堺市補助事業／堺市障害児放課後活動等支援事業

対象 小1～高校3年生までの障がいのあるお子さん（福祉サービス受給者証は不要）

実施場所 大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-32

実施日時 火～金：14：30～16：30 土曜日：11：00～17：00

実施内容 ①鉄道&仮面ライダークラブ ②マラソンクラブ ③親子プログラム ④自主グループ

<ぴーすの児童デイ ぱんだ／ぼんた／ぴころ>

事業形態 児童福祉法/児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業

対象 幼児～高校3年生までの児童発達支援、または放課後等デイサービスの支給決定を受けているお子さん

実施場所 ぱんだ：大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-19

ぼんた：大阪府堺市北区百舌鳥本町3丁 8-17

ぴころ：大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 22-2-102

実施日時 月～土 10：00～17：00

<ぴーすの支援プランセンター>

事業形態 児童福祉法/障害児相談事業 障害者総合支援法/特定計画相談事業

対象 主に、0～18歳の障がいや発達に不安のあるなどのお子さんの保護者

実施場所 大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-32

実施日時 月～金：9：30～17：30

<生活支援グッズのお店 ぼっしゅ>

事業形態 ぴーすのオリジナル市民活動

対象 すべて！！

実施場所 大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-32

実施日時 火～金：10：30～16：30 土曜日：11：00～17：00

<ぴーすのあい・すてーしょん>

事業形態 児童福祉法/障害児等療育支援事業

対象 0～18歳の福祉サービスを利用しないお子さん／保育所・学校・児童福祉サービス事業所

事業窓口 地域生活支援センターぱれっと

実施内容 ①訪問相談 ②来所相談 ③集団療育体験 ④個別療育体験 ⑤施設支援・助言など

<キッズサポートセンター スーパーバイズ>

事業形態 アドバイザリー業務

対象 キッズサポートセンターさかいスタッフ

事業窓口 特定非営利活動法人 ぴーす

実施内容 ①相談対応への助言 ②相談記録の確認・分析・活用等への助言 ③スタッフスキルアップ研修および指導など

■主に、幼児期の子どもたちが参加したもの ■

乳幼児期に発達の遅れやつまずきに気づいた保護者は、大きな不安におそわれます。ぴーすは、その不安な心に寄り添いながら、幼児期の「日々、成長する子ども」にとって、最適な環境を用意することを、保護者といっしょに考えて、次のステップへつなぐ支援を実施しています。

平成27年度に実施した内容は、以下のとおりです。

1：ばれっと〈遊び広場 プリズム〉

平日に開催した『親子で利用する遊び場』。不安な心を抱え「家で子どもと閉じこもりがちで気持ちがどんより」「自由気ままな子どもについていけない」と悩む母が、親子で遊ぶ場として設けています。男の子も女の子も楽しめるおもちゃをたくさん用意して、実施しました。

■年間実施回数 58回

■年間参加延べ数 29組

＝ スタッフより ＝

その月により、参加人数にバラつきはありましたが、親子教室やプレ幼稚園がない日に、たくさんの親子が遊びにきました。遊びに行く場がない時の居場所として役立てたと思います。

2：あいすてく親子の居場所プログラム：ポップコーン〉

『発達につまずきのある子どもと保護者』が、療育を体験するプログラムを実施しました。主に、1～2歳児の親子が利用。5.6名の少人数で、はじまりの会・設定保育・お弁当タイムなどのゆるやかな集団活動を体験する中で、生活やコミュニケーションの力を養う活動を行いました。

■年間実施回数 33回

■年間参加延べ数 58組

※平成27年4月～12月は、障害児等療育支援事業の「外来による療育」として実施。



3：あいすてく〈デイでの個別療育体験〉

昨年から引続き、障害児等療育支援事業の「外来による療育」として、ぴーすの児童デイでの個別の療育体験を実施しました。保護者がわが子に療育が必要かどうかを悩んでいる場合や、サービス利用を申請し決定待ちだが、今すぐ療育を受けたいという希望がある場合に、「個別療育」を提供するというものです。

平成27年度利用のケースは、ほとんどが「保健センターの健診等で障害や発達の遅れが発見されたが、すぐに療育につながらない」という子どもたちでした。みんな1ヶ月ほどの利用のあと、次のステップに進まれました。

■年間参加延べ数 43名

4：ぴーすの児童デイ〈平日の児童発達支援（幼児クラス）〉

受給者証を取得し、サービスを利用する児童発達支援。ぴーすでは、平日に固定メンバーで個別の支援計画のもと、育を実施しています。平成27年度も、多くの子どもさんに利用していただきました。

特徴としては、前年から引き続き利用となった「普段は地域の保育園や子ども園に通園している子どもたち」が、療育を受けるため週1回もしくは2回通所するケース。複数名の利用がありました。ぴーすとしても、2年・3年と関わることで、関係をゆっくり構築していくことができ、継続した支援ができました。

また毎日利用する子もいる中で、徐々に利用者が増えたため、12月より年齢別に2クラスに分かれ、1～2歳児は「身辺自立」を、3～4歳児は「設定保育を通してコミュニケーション力の向上」を目標に活動しました。分かれたことで、年齢に合わせたプログラムを提供することができました。

年度途中からの新規利用者は「健診等で障害や発達の遅れが発見されたが、すぐに療育につながらない」ケースが多く、翌年の安定した進路につ

ながるまでの間、療育を提供しました。短い期間の利用者もいましたが、必要な時にタイムリーに対応できたことで、安心される保護者が多かったです。

■年間利用契約者 実数 13名

＝ スタッフより ＝

平成27年度も「健康な身体づくり」「身辺自立の練習」「ス



スタッフとの信頼関係の構築」「豊かな幅の遊び体験」「保護者支援」を目標に取り組みました。

1～2歳児の「身辺自立の練習」は、例えば「お着替え」。昼食後、スタッフに促されて着替えます。最初は全く協力する気がなく、着替えを終えるとスタッフが「やれやれ」といった感じだったのが、3月には身体を上手に使う「ズボンに膝上から腰まで上げる」「腕を抜く」などできるようになり、スピードもアップしました。日々練習していく中で、オマールに座れるようになった、お弁当を手づかみではなくスプーンやフォークを使って食べられるようになったなど、日々の繰り返しの中で子ども達が経験を積み重ね、いろんな事が出来るようになっていった姿を見て、支援の大切さを実感する事が出来ました。



3～4歳児の「健康な身体づくり」は、「お散歩」です。写真カードで行き先を伝え、顔写真カードを並べて歩く順番と一緒に歩くスタッフを伝えます。冬はジャンパーを着ることに時間がかかりますが、手指の操作活動にもなっています。寒かったり暑かったり、桜が咲いていたり紅葉していたりと季節を感じながら歩きます。ゆっくり歩く子、せかせかと先を急ぐ子と様々ですが、途中で休憩をはさんで、施設へ戻る時間には大差なく戻れました。

クリスマス会やお別れ遠足、保護者さんを招いてのスライドショーの上映などの行事も、親子で楽しんでおられた様子が嬉しかったです。



5：ぱれっとくおもちゃ図書館ぽっぽ

障がい児の母親たちがボランティアで活動している『おもちゃ図書館ぽっぽ』と協働で実施したプログラム。

ぽっぽは、平成9年から活動を開始し、現在18年目。活動目的は「障がい児が主役になれること」、活動内容は「おもちゃで遊ぶだけ」。そんなシンプルな活動を、地道に続けているのが、ボランティアグループ『ぽっぽ』のスタッフです。

具体的な内容は、たくさんのおもちゃが揃っている中で、好きなだけ遊んでおしゃべりして時を過ごせる空間づくり、障がい児とそのきょうだい・保護者が気がねなく、のびのびと自由に遊べる場所づくりです。

さらに、ぽっぽスタッフをはじめ、様々な市民ボランティアが活動に参加してくれるのも特徴の1つ。幼い障がい児と自然にふれあう中で、みんなの共生意識が向上される『啓発活動』にもなっています。

今年度は、土曜日の親子の遊び場として、第4土曜日に開館しました。

- 年間実施回数 13回
- 年間参加延べ数 160人
- おもちゃ年間貸出総数 5点 / 団体への貸出件数 2件
- 以下の『その他の活動』合わせての延べ総数 276名

その他の活動

| 内容 | 年間 | 延べ数 |
|------------------|-----|------|
| 機関紙『よっTOYで!』編集会議 | 10回 | 36名 |
| おもちゃのクリーニング | 10回 | 32名 |
| 運営会議 | 9回 | 36名 |
| 総会 | 1回 | 8名 |
| 啓発活動イェレシキャンペーン | 2回 | 4名 |
| 合計 | | 116名 |

＝ 担当者より ＝

平成27年度は、数年ぶりに第4土曜のみの開催でした。夏祭り・クリスマス・・・と、ささやかですが季節ごとに手作りのイベントを開催したり、エアートランポリンを出したりして、活動内容も変化を持たせることで、さらに楽しんでいただけたかと思います。

＝ ある日のぽっぽ ＝

この日もたくさんのおもちゃたちが遊びに来てくれました！ボランティアの体験できてくれた2名の学生さんもすっかりなじんでくれて、子連れで来ていたぽっぽスタッフは大助かり

でした。一緒についてくる小さいきょうだい児さんも、他の小学生のお姉ちゃんになついちちゃたりして、ドレスを着て意気投合していました。元気いっぱい泣いたり笑ったりするほほえましい姿には、毎回癒されます。



== ある日のぼっぼ ==

今月のぼっぼは、1日遅れのクリスマス～部屋の中もクリスマスの飾り付けでカチューシャや帽子をかぶって、それぞれのクリスマスを楽しみました♪帰るときには、お子さんと保護者の方に、ぼっぼスタッフからクリスマスプレゼント！！特に、保護者の方は、自分ももらえと思ってないので、毎年、大変喜んでもらっています～。最後に集合写真を撮りました。



6：ぴーすの児童デイ〈土曜のぴころ〉

土曜日に、幼児～小2程度のお子さん対象で『将来の趣味・余暇につながる体験をするプログラム』を実施しています。アクティブ活動、音楽活動の他に、おやつクッキングやアート活動などを小集団で行いました。年齢に幅がある中、個々の興味・関心、できることの幅などが広げられるよう「内容に変化をつける」工夫をしました。

■年間利用契約者 実数 25名

■■ 主に、学齢期の子どもたちが参加したもの ■■

学齢期といっても、小1～高3までと幅広く、年代により子どもたちが抱える課題は違います。自分の力をしっかり伸ばす

小学生時代、思春期の難しさがでる中学生時代、大人への移行期となる高校生時代、それぞれに丁寧な支援が必要です。

ぴーすは「年齢相応の活動」にこだわり、どの活動にも「その年齢にふさわしい内容」を意識して行っています。そのため活動の目的に合わせたチームを作り、支援を実施しました。

▼△ 生活力や社会性をアップするための活動 ▲▼

将来の力をアップするための活動。ベースは放課後等デイサービスです。3つの事業所がありますが、目的は共通していません。

活動目的：

単なる「預かり」ではなく、一人一人の障がい特性や持っている力（苦手なことできないことも含め）をしっかりと捉え、その力を「より伸ばす支援」、本人がしたいことを「できる工夫」などを行うことで、将来の『その子らしい自立』を目指すこと

活動方針：

「今、楽しく暮らす」ことをベースに、年齢らしい「チャレンジ」や「役目を担うこと」や「友達付き合い」ができる環境を整える。

一人ひとりの子どもの「こうなりたい」という心の声に耳を傾けて個別支援計画を作成。

日々、それを基に家庭と連携しながら支援を行う。

生活力アップをめざし、以下の力を育てる。

1. 家で過ごす力

自分のことは「自分でする」力、家の中で「ひとりで」または「家族と楽しむ」力、家族に「役立つ」力の育成

2. 地域に交わる力

街の中で「移動する」「買い物する」「外食する」などおいてのマナーやルール、エチケットの獲得

3. 友人と楽しむ力

同世代の友人、異世代の先輩・後輩の中で、「協力する」「認め合う」力の育成

平成27年度の内容は以下のとおりです。

7：ぴーすの児童デイ〈平日のばんだ〉

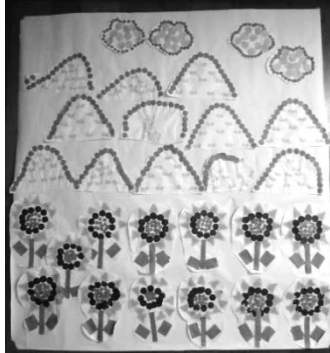
百舌鳥支援学校・上神谷支援学校の小学生・中学生が利用。

== 活動の様子 ==

2年前からの行っている集団活動の『府大散策（運動）』。今年度は、みんなの力がアップしたのを感じる一年でした。みんなで行きたいコースを決める、歩く順番やルールを守るなどが

できるようになりました。夏休みは、府大散策に「学食での昼食」をプラスして行いました。このような経験を1年間通して行うことで、自分が食べるメニューを見付ける幅も広がり、食べたら食器を片付ける、食堂の方にご挨拶をするなどができるようになりました。

また、年間を通じいろいろな素材に触れる目的の『制作活動』や『クッキング』を行いました。制作活動は、季節に合わせたテーマで、いろいろな素材を使いながら、そ



れぞれに力を出し、共同作品づくりを行いました。写真が共同作品『夏の山』です。

クッキングは、同じ材料でおやつを作りました。材料は卵。1年かけて取り組むうちに、卵を自分で割ることや作る工程も理解できるようになり、ホットケーキやたこ焼きができるようになりました。

ぴーすの児童デイで大切にしている『お手伝い活動』。ぱんだでは、『掃除』をテーマに、それぞれができること見極めて、担当決めを行いました。徐々に、自ら片づけが出来るようになり、自ら動く姿も多くみられるようになりました。

== A スタッフより ==

平成27年度のぱんだ活動を振り返って子ども達の成長を最も感じたことは、コミュニケーション力でした。

今年度は、メンバーの移動から始まり、途中から新規利用の子が加わるなどの「変化の年」で、そんな中で迎えた長期休みでは、びころ・ぼんと3事業合同活動の日もあり、活動内容や動きを状況に応じて変更することもありました。個々に言葉や動作・絵カードを使うなど方法は違いますが、『したい・しない』『やって～・やめて』『ほしい・いらぬ』の自分の気持ち



ちを伝えることができ、不安な気持ち・しんどい気持ちを発信⇒伝わった！を繰り返すことで『やってみよう!!』の自発的な行動に繋がったように感じました。

また、自分の気持ちを表現し共感してもらえる経験を積むことで、相手を理解したり、許してあげたりなどができるようになってきたのだと思いました。

平成28年度も、年齢幅のある活動を活かしてワイワイと元気な声でいっぱいのはんだ活動にしていきたいと思います。



== B スタッフより ==

アートでは、昨年度とは少し違った貼り絵を行いました。初めの頃は、少ない数のパーツを貼る所からスタートし、その後、徐々にパーツを増やしていきました。いろんな作品を繰り返し作って行く中で、パーツの数が増えても、集中して最後まで完成させる事が出来るようになっていきました。

府大散歩では、中学生の子達が小学生の子達を迎えに行き、一緒に散歩をしました。歩くペースは年齢によってまちまちではありましたが、年長者である子達がポイントごとに立ち止まって、後から来る子達を待ってあげる事も出来るようになり、一緒にゆっくりと散歩する事も出来ました。

他のプログラムでも、繰り返しプログラムに参加していく中で、子ども達が意欲的に取り組む姿を見る事ができ、成長を感じる事が出来ました。



8：ぴーすの児童デイ <火木のぼんた>

地域小学校・中学校（その出身）の子どもたちが利用。

== 活動の様子 ==

主に、地域の小・中学校のグループ。集団活動として、天気の良い日は、公園でボールあそびをしたり、「外出するなら、どこに行きたいか」などの話し合いをし、長期休暇は、子ども達で決めた場所に出かけたりなどをしました。

しかし、全員の到着時間がバラバラであることや、活動時間が短いことなどがあり、個別活動になってしまうことが多かったのが残念でした。

== スタッフより ==

通常活動は、主に宿題やPCでの学習、買い物学習、室内でのルールのある遊びや、公園での集団遊び、おやつクッキング、お仕事等を行いました。

長期休暇の活動は、プールやボーリングに行ったり、DVDや染物を作ったり、昼食クッキング等、皆の希望を聞いて皆で話し合って決め、普段ではできない活動に取り組みました。

一人一人が自分のやりたいことや思いを伝えられるように、そして周りの友人の意見も聞けるような環境作りを目指してきました。様々な学年・学校のお子さんが来られているので、貴重な経験をされていたと思います。日々の積み重ねにより、皆の成長が感じられた1年でした。



9：ぴーすの児童デイ <月水金のぼんた>

主に、堺支援学校の高校生のグループ

== 活動の様子 ==

月曜日はお仕事、水曜日はおやつクッキング、金曜日はアートをプログラムにして活動を行いました。

お仕事では主に家事を行い、洗濯や衣類たたみ、階段・窓拭きや花壇への水やり等を行いました。おやつクッキングでは、

ホットケーキ・たこ焼き・フライドポテトをローテーションで作っていきました。アートでは、季節を先取った物に取り組み、家で飾れるものを中心にスタッフが考えて取り組んでいきました。

長期休暇の活動では、それぞれのペースは崩さずに取り組み、外出に出かけたり、昼食クッキングをしたり、作品展に応募するためのアートを製作したりしました。

== スタッフより ==

全体での子ども達を見ていると、任されたお仕事や行動などやったことに対して「役に立った・かっこいい!」と認められることに喜びを感じたり、他者から見た自分を意識したりする姿に、それぞれのペースで「体だけではなく、気持ちも大人への階段をのぼっているんだな」と実感することが多かったです。

クッキングは、手順もしっかり頭に入っていて、回数を重ねるたびにスタッフの手伝いは減っていくのを感じました。とにかく、丁寧に大きさを合わせて切ることにこだわる子、早く食べたいので作るのも時短にしたい!と躊躇なく大胆に作業する子など、それぞれの姿があり、見ているスタッフも楽しかったです。中には、お友達と協力しての材料の計量してくれたり、テーブルをみんなで囲んで型抜きをしたりと、わいわいと楽しい時間が持てました。

あまりクッキングに参加しない子も、周りの雰囲気に乗せられたのか?クッキーが目新しかったのか?輪の中に入って一緒に作り・食べたことは、とても驚きうれしかったです。

工作を楽しみにしている子が多く、いつも席が空くのを後ろで待機しているほどでした。細かい作業もあるのですが、集中して取り組む時間も長くなったように思いました。同じ材料で、同じ手順書を見て作りますが、微かな配置の違いなどで個性豊かな作品がたくさん出来上がりました。季節飾りも数多く作り、自宅の玄関などで飾ってくれることもあったようです。



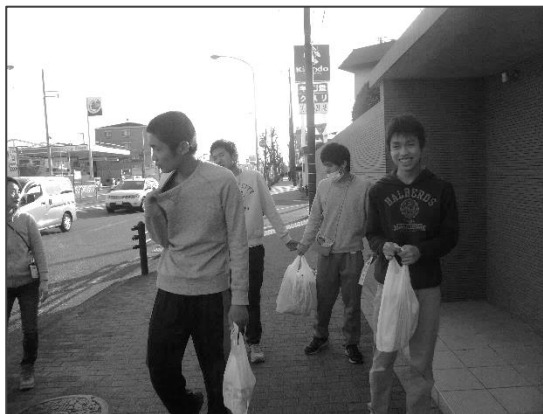
10：びーすの児童デイ <平日のびころ>

泉北高等支援学校、西浦支援学校高等部の高校生が利用。

== 活動の様子 ==

6月に開所したびころの家。それまでばんだ・ほんたにいた高校生が移動してきました。びころは、一軒家のばんだ・ほんたと違いワンフロアの事業所。その1つの部屋で3~5人で活動することになりましたが、みんな自分達のスペースで落ち着いて過ごし、今まで以上に友達を意識して活動に参加する姿が見られました。

去年から引き続き行っている「ペットボトル活動」「アート」のほかに「びころの家で使う備品やばんだの後輩が使う備品を購入し届けるお仕事」を新しいプログラムに追加しました。初めてのプログラムには戸惑いも見られましたが、1年を通して行うことで、写真を見て買うものをひとりで探すことができるようになった子もいます。また、自分で買い物をしたことで、食べるおやつを変えてみるなど、変化がみられました。



おやつを購入する場所も、セブンイレブンからイズミヤに変わったことで、選択の幅が広がりました。買い物を通じて、スタッフとの交渉に応じる力がつき、成長した姿が見られました。

お手伝いの活動では、活動の終わりに使った部屋を、自分達できれいにすることをテーマに「掃除」を行いました。自分で選択し継続して行うことで、「自ら動く」姿が見られます。この活動は、今後も引き続き行っていきたいと思っています。

== スタッフより ==

事業所移動やグループの編成など、子どもたちにとってもスタッフにとっても変化の多い1年でした。年度初めは、タイムスケジュールを掴むのにスタッフがバタバタしてしまって、子どもたちのほうが落ち着いて過ごしていたような気がします。

課題や製作などの学習は、集中して意欲的に取り組み、回数を重ねるごとに見本を意識して完成させることができている。ペットボトル活動や買い物などの外出活動では、一緒に

歩くスタッフのペースに合わせることができ、自分から意識して振り返ってくれる姿が見られました。また、備品の買い物では、子ども達が卒業した「ばんだ」に購入した備品を届けに行きました。家のドアを開けるのをためらう姿や、照れながら手渡す姿、「ありがとう」と言われて嬉しそうな様子、子ども達のいろいろな姿が見られました。



たくさんの変化を経験したことで、今まで気付かなかった子どもたちの姿や成長を見ることができたなと感じます。スタッフも楽しく支援することができ、約1年間で「びころ」が子ども達の居場所になっていたことが嬉しく思います。

主に、学齢期の子どもたちが対象の

▼△ 趣味・余暇の力を育てる活動 △▼

人生を豊かにする『趣味・余暇』。びーすは、その力や『同じ趣味をもつ友人』とつきあう力を育成する活動を大切にしています。平成27年度の内容は以下のとおりです。

11：ぷらむく鉄道&ライダークラブ>

とにかく「鉄道が大好き!」「仮面ライダーが大好き!」な子が集まって、趣味の楽しさを分かち合いながら友人関係を築いています。鉄道クラブで意気投合した友人同士が協力し、子どもたち自身が参加してくれる人へ呼びかけて集めた、関西のあらゆる路線の時刻表。興味を持った子が自由に持ち帰ることができるよう、整理して壁に掲示したところ見事なインテリアになりました。

仮面ライダーコーナーでは、「平成ライダー」「昭和ライダー」とさまざまな年代のフィギアが揃っていて、マニアックな情報が飛び交っています。

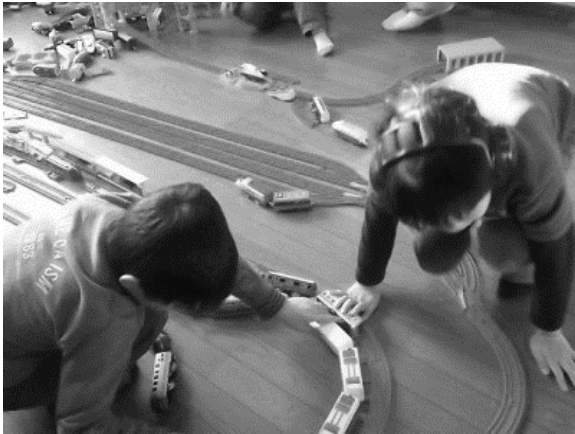


時刻表コレクション

お互いを尊重し合いながら遊ぶ姿を見ていると、「好きなものがある強み」というのをひしひしと感ずます。「好きなもの」「得意なこと」を通じて、子どもたちがよい影響を受け合いながら余暇を楽しんでいました。

■年間実施回数 235回

■年間参加延べ数 863名



＝ スタッフより ＝

「PLの花火を観に行きたいんだけど…」とHくんから相談を受けたスタッフが、時刻表に詳しいFくんへヘルプ。Fくんは、生き生きとした表情で掲示してある時刻表から選んでくれ、路線図を持ってきてくれ、詳しい行き方を説明してくれました。

12：ぶらむ〈マラソンクラブ〉

開催スタートから2年以上が経ちました。仲間と一緒に楽しみながら「走ること」を継続しています。最初は「走り続けること」が難しかった子が、今では公式なマラソン大会で3kmを余裕で完走できるほどになりました。大会への出場も何度も積み重ねていくことで、「仲間と一緒に挑戦し、達成することの喜び」を味わい、親子一緒に新たな次の目標に向かって、また走り出しています。

■年間実施回数 50回

■年間参加延べ数 206名



＝ スタッフより ＝

「堺市民マラソン」への参加は今年で3回目。毎週土曜日の練習で、本番に向けて一生懸命がんばってきたメンバーたち。全員が3キロを見事完走！続けて出場している子は、大会に随分慣れ、走る姿にもどこか余裕が…。初出場のメンバーも友だちを支えに頑張っていました。さらにステップアップした「競技マラソン」という種目に挑戦する子もいたり、毎年新たなチャレンジをしながら続いています。



13：ぶらむ〈親子プログラム〉

「親子でいろんなことにチャレンジ！」をテーマに、クッキング・アート・外出活動などに取り組みました。

- ★割り箸鉄砲を作ったあてゲームをしよう！
- ★ピザ作り
- ★クレープ作り
- ★木の実アート
- ★手作りスライムで遊ぼう！
- ★プラ板でキーホルダー作り！
- ★iPadアプリを使ってピクチャリウムに挑戦！
- ★クイズラリー形式で街を探検！

などなど…家で、母ひとりではなかなかできないことにチャレンジしました。

■年間実施回数 25回

■年間参加延べ数 91名

＝ スタッフより ＝

妹さんと参加してくれたKくんは、ピクチャリウムに挑戦しました。専用の用紙に魚や好きなキャラクターを描き、iPadでアプリを使って読み込みます。海の中で自由自在に動くキャラクターたちにエサをあげたり、指で誘導してみたり…。iPadで遊ぶだけではなく、大好きなお絵かきもプラスされ、家族で賑やかに楽しみました。

「ミニピザ作り」では、自分で材料を切って、トッピングす

る楽しさを味わう体験！きょうだいで参加してくれた T くんは「作ったものを交換しよう！」と一生懸命作りました。きょうだい思いの優しい行動が垣間見られ、お母さんは感動！家では見られない場面だそうで、スタッフも心温まりました。



14：びーすの児童デイ <土曜のぼんた>

びーすの児童デイでは、土曜日に小3～高校生を対象に『趣味・余暇のプログラム』を実施しています。土曜日の別グループで幼児期の子どもたちが『将来の趣味・余暇につながる体験をするプログラム』に参加し、その後いよいよ『自分の趣味・余暇スキル』を本格的にアップしようという子が上がってくる仕組みです。

平成 27 年度は、ぼんたにて、スポーツ活動（マラソン）、音楽活動（個別指導）、アート活動、クッキング（個別と集団）のプログラムを実施しました。

それぞれ自分の好きな趣味を楽しむ場として、また将来の人生を豊かにするために、いろんな力を育てるのが土曜のぼんたです。

== 活動の様子 ==

スポーツ活動はマラソンに取り組みました。みんなで府大まで移動し、大学内の広場を何周するか自分で決めて走りました。

音楽活動は、音楽の先生をお招きして、個別で音楽の指導を受けました。アート活動もそれぞれ個別に取り組みました。

個別クッキングは、毎回同じ食材を使い、同じ工程を繰り返すことで力を養いました。集団クッキングは、子ども達で話し合っただけで次回作るメニューを決めて、次回にそのメニューの買い物・調理を行いました。

== スタッフより ==

スポーツ活動

府大まで車で移動し、マラソンを行いました。各自、何周頑張るか目標を立て、時には自分の体調を考慮し、柔軟に目標修正する方もおられました。マラソン後には、セブンイレブンでお買い物をする事も楽しみの一つとし、モチベーションが下が

ることなく取り組めていました。

個別音楽活動

音楽の先生に来て頂いて、マンツーマンで練習しました。どの子も練習を楽しみにしているので、名前を呼ばれると積極的に部屋に入ります。ピアノを両手で演奏する事をマスターしようがんばっている子もいます。先生も成長を嬉しそうに、スタッフへ伝えて下さることもしばしばありました。

アート活動

工作や書道に取り組みました。手本を見ながら、作ったり書いたりされている際の表情は真剣そのもの！しっかり集中して取り組む事が出来ました。時間の後半には、大仙公園へ散歩に出かけ、メリハリを付けました。しっかり歩いて、帰りにローソンでお買い物も楽しみの一つでした。

個別クッキング

支援学校の中学生在が参加。視覚支援グッズを準備し、調理器具や食材の用意から調理まで「自分でできる」よう工夫しました。

工程は一緒でも、ルーや味付けを変えるとカレー、シチュー、肉じゃが等が出来る事を体験しました。レシピを見ずにテキパキとこなせるようになった子もいます。

集団クッキング

地域の学校へ通われている子の集団活動。前月にみんなで話し合っただけでメニューを決め、当日は買い物班・下準備班に分かれて「みんなで作る」事に取り組みました。話し合いで決めたメニューは、日頃食べ慣れていないものでもチャレンジしたり、苦手な食材はしっかりと伝える事が出来る様になりました。

全体を通じて

それぞれのプログラムに一年取り組んできましたが、回を追うごとに成長や上達が見られ、大きな経験になったのではないかと感じています。

15：びーすの児童デイ <土曜のぼんた>

ぼんたの土曜活動を進める中で、子どもたちの特性や課題に合わせた新チームを検討する必要が出てきました。さらに幼児グループから上がってくる子も増えました。

そこで、平成 28 年 1 月より、ぼんたでも小3～高1の土曜活動を開始しました。1 月からの土曜活動は、ぼんた・ぼんたで以下のようになっています。

新しく開始したくぼんた 土曜日とは

言葉によるコミュニケーションが可能な子の集団活動

スポーツ 集団で楽しむスポーツ活動。身体を動かす楽しさを体感する。また、スポーツ全般への興味関心を高められるよう、他の競技の体験や観戦なども取り入れ、スポーツを楽しむ力をつけるプログラム。

アート 集団で行う絵画・書道・工作などの製作活動。達成感のもてる作品を作ることで、創作意欲を高める。また、幅広いジャンルに挑戦することで、興味関心の幅を広げ、アートを楽しむ力をつけるプログラム。

集団クッキング 集団で協力して行う調理活動。みんなでメニューを選び、役割を決め、全員で調理を行い、ともに味わう。



== 1月から開始したばんだ（土）スタッフより ==
 共通テーマとして「楽しむ」を第一に考え、子ども達に参加してもらおうようにしました。特にアートでは、書道を中心として習字・掛け軸作り等、芸術にふれてもらいました。これまでは「見本のようにしなければ」の意識が強く、「楽しむ」から少し離れていたように感じていました。そこで、大人も子どもも楽しむ・楽しめるムード作りから再スタートしました。遊び心を取り入れつつ、見本を見つつも感じたように子ども達は取り組みました。仕上げた作品をスタッフ・大人から評価を受けると、少し照れながらも、満面の笑みを見せてくれています。少しずつ作品に「自分らしさ」が表現されていて、スタッフ一同とても嬉しく感じています。

チーム構成を変えたくぼんだ 土曜日は

個別の介護・支援が必要な子の個別の趣味・余暇活動

スポーツ 個別支援を受けて行うマラソンなどのスポーツ活動。「走る」ことを通じて、身体を動かす楽しさを体感する。

音楽 音楽の指導者とマンツーマンでレッスンをする個別音楽活動。個々の状態に応じ、ピアノ演奏や楽譜を読む力をつける、音楽で身体の緊張をほぐすなどの目標を設定し、音楽を楽しむ力をつけるプログラム。

アート 個別支援を受けて行う絵画・書道・工作などの製作活動。達成感のもてる作品を作ることで、創作意欲を高める。また、幅広いジャンルに挑戦することで、興味関心の幅を広げ、アートを楽しむ力をつけるプログラム。

個別クッキング 簡単な料理を「手順書を用い自分で作る」個別活動。調理力をつけ、自分で作った物を味わう楽しみを体験する。



▼△ 特別企画の活動 △▼

各事業の日常的な活動の中で、友人関係（信頼関係）を構築し『仲良し』になった仲間同士で、時には特別企画の遠足を企画することもありました。

一方、他の団体との協働企画のワークショップも、ぴーすでは恒例となっています。平成27年度も他団体との協働し、実施しました。

以下が、特別に企画した活動の報告です

16：ぷらむ〈特別企画イベント〉

ぷらむでは、通常活動とは別に季節に応じた取り組みを意識しながら、以下のイベントを企画しました。いつもと違う特別な活動は、みんなの目がキラッとします。そんな中、友だち同士の関係が深まり、お母さん同士の話にも花が咲き、ボランティアさんとの関わりも合わさって、日頃はなかなか味わうことのできない貴重な経験になりました。

■年間実施回数 8回

■年間参加延べ数 171名

★秋の行楽スペシャル ～乗り鉄ツアー～

①「特急こうやに乗ろう！」

仲間と一緒に「特別仕様の電車に乗ってみよう！」を目的に企画。景色を見たり楽しくおしゃべりをしながら盛り上がりました。「特急こうや」では、紅葉の時期には少し早かったです

が、都会では味わえない景色に歓声が上がっていました。現地に到着後は、お弁当食べたり傾斜 30 度を登り下りするケーブルに乗ったり、ゆったりのおんびり過ごしました。

②「特急きららに乗ろう！」

「展望列車きらら」は、窓向きに椅子が設置され天井まで届く大きな窓で解放感ハンパなし！鞍馬駅は、京都らしい駅舎でとっても風情がありました。現地で散策をしたり、みんな思い思いに過ごしました。

《参加された方の感想》

- ・長い時間電車に乗ったことがありませんでしたが、お友達と一緒にだからか？楽しそうに座って景色を見ていました。電車で外出ができるとわかり、余暇の幅が広がりそうです。
- ・家族だけではなかなか出かけられない電車旅に出かけられたことで、電車に興味を持ったようでした。

17：ぱれっと <子どもたちのワークショップ>

ぱれっとが単発（特別）に企画したワークショップ。子どもたちが参加したのは、以下のものです。

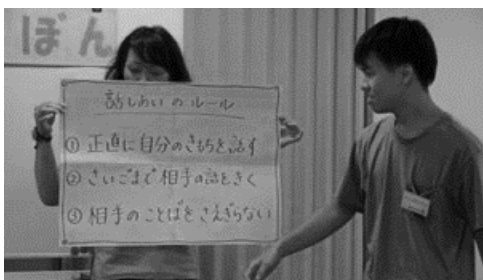
<夏の軽度発達障がい児のためのワークショップ>

すっかりお馴染みの NPO 法人えんばわめんと堺とのコラボ企画、発達障がい児のためのワークショップが夏休み真っ只中の 8/6 に開催され、7 名の方が参加されました。「怒りの温度計」では、長い紙を巻尺に見立てて、自分の怒りはどのあたりか考えてもらいました。

話し合いのルールについてのワークでは、セリフを自分たちで考えてもらい、前で実際に演じてもらいました。

最後に今日の頑張ったご褒美に、キラキラ光る星をプレゼント！ペンダントを首から下げてカメラに向かってピースサインしてくれる皆さんは、やり遂げた達成感に満ちて、自信あふれる笑顔が眩しかったです！

保護者の方も別室でコミュニケーション支援について話し合わせ、親子でメガ進化の夏となりました。



<第3回子ども防災ワークショップ>

これまたぴーすではすっかりお馴染みの堀先生の防災ワー

クショップ、夏休みも終盤の 8/25 に開催されました！

前半はセミナー形式で、地震や台風についてみんなで学びました。「地震があったらエレベーターで避難する？階段で避難する？」などの質問に、それぞれ理由も含めて答えてくれました。後半は瓦礫に挟まれて動けないときなどに「助けて！」という練習を、全員に前に出てやってもらいました。

その後、皆さんで座布団を頭にかぶって避難訓練を行いました。皆さんとても冷静に避難することが出来ました。



防災ワーク
のようす

■■ 18 歳以上の本人も参加するもの ■■

18：ぱれっと <しゃべり場>

堺東高校の渡邊元嗣先生（なべさん）をボランティアで迎え、当事者向けプログラムとして活動しています。「いつでも誰でも自由に」のスタイルで、当事者の方々の日常生活の小さな悩み相談から、趣味や余暇活動を共感し合う場として開催。開催日は、就労や訓練中の障がい者の方も利用しやすいよう「土曜日」とし、生きがい、仲間作りを目的に進めてきました。

なべさんが、精神保健福祉士・学校心理士・特別支援教育士の立場から、さまざまな相談にも対応。一人ひとりの利用者が地域の中で「自立した日常生活」「社会生活」を営むことを支援する「なべ先生のしゃべり場」は、回数を重ねるごとに徐々に浸透し、ぱれっとが素敵な居場所として活用できる貴重なプログラムとなりました。

■年間実施回数 47 回

■年間参加延べ数 214 名

＝ ある日の活動の様子 ＝

当日は、堺東高校ボランティア部の皆さん、卒業生、社会人、ご近所にお住いの中学生、高校生の方。そして大阪市内からは、常連さんの Tさんと彼女が暮らすグループホームの世話人の方も♪どんどん輪が広がっていきます。

まずミーティングで、自己紹介と近況を順番にお話しします。この日は、全国手をつなぐ育成会連合会の発行する「手をつなぐ」の当事者の声を伝える～わたしたちも言いたい～に原稿が掲載予定の Tさんが、そのことをみんなに報告！「おお

～！！！！」と皆さんからは歓声があがりました。



■■ 自主活動 ■■

外出や芸術・趣味的な活動に取り組む利用者が活動に対し「自ら、何をするか考え、見つけ、広げる」こと。そして、見つけた活動の「具体的な活動内容を選び、準備する、実行する、達成感を味わう」ことを、フレキシブルな形・方法で支援をしました。平成27年度の活動内容は、以下のとおりです。

19：ぷらむ〈自主グループ いるか〉

重度知的障がいの小中学生の自主グループです。

月に一回程度、ボランティアと一緒に動作法を取り入れながら、身体と心のリラックス法を学び合っています。

■年間実施回数 10回 ■年間参加延べ数 134名

＝参加者の感想＝

年に数回取り組んでいる長時間の取り組みの「ロングいるか」は、いつもより長い時間かけて、じっくりと身体をリラックスすることを中心に頑張りました。ボランティアさんに指導してもらいながら、今回はお母さんたちもいっしょに、子どもたちとしっかり向き合う時間が取れたことがよかったです。

20：ぷらむ〈自主グループ カラフル〉

重度知的障がいの小学生2組で、ダイナミックなアート活動に取り組んでいます。

「お友だちと大好きなアートをおもいっきりやってみよう！」と、1年前から2組の親子で自主的に始まった活動。今年度、グループ名が「カラフル」に決定しました！

■年間実施回数 3回 ■年間参加延べ数 12名

＝活動の様子＝

グループ名にふさわしくカラフルな色が大好きなMくん。逆にいつも黒一色が好きなTくん。それぞれの個性が光ります。彩色可能な白いうちわにマスキングテープを貼って模様を作り、一面を絵具で塗っていきます。丁寧にすき間なく塗っていくMくん。乾かして、最後にマスキングテープをはがすと

ステキなうちわになりました！

Tくんは、筆ペンを使って力強い作品を仕上げました。真っさらな紙の前にすると「どうしよう～??」となったTくん。お母さんが大まかに輪郭を描いたところ、Tくんが黒一色で丹念に塗り塗り…なかなか強そう？な龍の完成！二人とも自由に活動しています♪



21：ぷらむ〈自主グループ 鉄道ポッポ〉

軽度知的、発達障害の小中学生親子の3組の自主グループです。

電車に乗ることが大好きな友だち同士が、鉄道会社が主催するイベントを自分たちで調べて、実際に参加することを楽しんでいます。

＝活動の様子＝

“南海電車まつり”に行ってきました。ラピート車内見学や、子ども車掌体験、南海バスや工場探検など興味深いものばかり。待ち時間が長いものもありましたが、鉄道好きの子たちは「好きなもののためなら…」としっかりと待つこともできました。

22：ぷらむ〈自主グループ みりゆり〉

軽度知的、発達障がいの小・中学生親子3組（きょうだいも含む）の自主グループです。

子ども同士が協力し合うことを目的に、やりたいことを出し合いどんな活動に挑戦するかを決めて取り組んでいます。

■年間実施回数 6回 ■年間参加延べ数 42名

＝活動の様子＝

みんなで食べるおやつ。「ホットケーキを作ろう！」という計画をして実行しました。自分たちで材料を揃え、手順も決めて進めていきます。粉を混ぜる時、最初はダマダマでしたが、力の強いRくんが混ぜるととってもなめらかに…。さすが！焼くのもひっくり返すのも、順番を守って出来ました。



23：ぱれっと〈自主活動 福山豊明さん〉

豊明の世界

福山豊明さんの自主活動。趣味のさをり織りの展示会を開催しました。

■実施日：10月27日～10月30日

■参加者 78名

== 活動のようす ==

今年度も多数の参加者が集まりました。豊明さんの織りなす〈さをり織の作品〉は、たくさんの人を繋げてくださいます。交流室からは毎日、笑い声が聞こえてきました。笑顔の豊明さんのまわりにはいつもお客様がいらっしやいました。

今回は、さをり織り体験を希望される方が多かったです。始めは少々戸惑っていても、様子を伺いながら織り出すと、みなさんどなたも上手にすぐにコツをつかんで織っていらっしやいました。細かな決まりはなく、淡々と作業をしていると心が落ち着くんだらうな、と感じました。同じ商品は決してない、世界に一つしかない作品が出来上がり本当に素敵でした。



24：ぱれっと〈自主活動 北原徳美さん〉

なーちゃんのゆめ

北原徳美さんの自主活動。趣味のビーズアクセサリーの展示会を開催しました。

■実地日：11月24日～11月26日

■参加者 45名

==活動のようす ==

今年で2度目の開催となりました。徳美さんのビーズ・ジュエリーの作品は、昨年よりぐっと増えていました。作品を引き立たせるためのディスプレイの工夫なども、コツコツとされていた。体験に来られた方は、とても楽しそうに過ごされていました。初めてでも作業がしやすいように、細かなビーズでイラッとしないようにと、徳美さんの配慮で大きなビーズも用意されていました。とてもなごやかな空気に交流室は包まれていました。また、来年に向けて作品を制作するのが楽しみで、お客様のリクエストにもどんどん答えていきたいと、徳美さんは笑顔で言っておられました。



子ども・本人が、利用・参加するもの ～まとめ

■幼児期■

- 1：ぱれっと〈遊び広場 プリズム〉
- 2：あいすてく親子の居場所プログラム：ポップコーン〉
- 3：あいすてくデイでの個別療育体験〉
- 4：ぴーすの児童デイ〈平日の児童発達支援〉
- 5：ぱれっと〈おもちゃ図書館ほっぽ〉
- 6：ぴーすの児童デイ〈土曜のぴころ〉

■学齢期■ ▼生活力・社会性

- 7：ぴーすの児童デイ〈平日のぼんだ〉
- 8：ぴーすの児童デイ〈火木のぼんだ〉
- 9：ぴーすの児童デイ〈月水金のぼんだ〉
- 10：ぴーすの児童デイ〈平日のぴころ〉

■学齢期■ ▼趣味・余暇

- 11：ぶらむく鉄道&ライダークラブ〉
- 12：ぶらむくマラソンクラブ〉
- 13：ぶらむく親子プログラム〉

- 14：ぴーすの児童デイ〈土曜のぼんだ〉
- 15：ぴーすの児童デイ〈土曜のぼんだ〉
- 学齢期■ ▼特別企画
- 16：ぶらむく特別企画イベント〉
- 17：ぱれっと〈子どもたちのワークショップ〉

■18歳以上

- 18：ぱれっと〈しゃべり場〉

■自主活動

- 19：ぶらむく自主グループ いるか〉
- 20：ぶらむく自主グループ カラフル〉
- 21：ぶらむく自主グループ 鉄道ほっぽ〉
- 22：ぶらむく自主グループ みりゆり〉
- 23：ぱれっと〈自主活動 福山豊明さん〉
- 24：ぱれっと〈自主活動 北原徳美さん〉

■■ 保護者・支援者向けに届けたもの ■■

びーすミッションの1つに『保護者のえんばわめんと支援』があります。障がいという言葉に翻弄され、不安や絶望感に苦しむお母さんたち。その心に寄り添い、心のケアをしながら、同時に必要な情報を伝えたり、暮らしの中の工夫をいっしょに考えたりしながら、お母さんたちがもともと持っていた『子育てへの夢や希望』を取り戻してもらおう支援です。

その形の1つが、保護者向けのセミナーやグループプログラム。平成27年度は、以下のような内容をお届けしました。

1：ぱれっと〈小さなセミナー〉

専門家が話す「大きな講演会」ではなく、もっと身近なテーマで暮らしに「即・つながる」勉強などをするため、少人数のグループワークを月2～3回程度開催しています。

テーマを一つに絞った少人数のセミナーのため、「同じ悩みを持つ参加者どうして、和気あいあいと話しやすいムードがいい」と好評いただいています。

また、支援グッズなどを作りながら、そのノウハウが学べる制作会も人気のプログラムとなっています。

■年間実施回数 29回

■年間参加延べ数 139名

(詳細は、次ページの表を)

== 参加者の感想より ==

★「気になる言葉の発達」に参加のお母さん

今までは、言葉が出ればすべて解決と思っていたので、考えの違いに驚きました。今日から、子どもとのコミュニケーションが楽しくなるように、頑張ろうと思いました。

★「自発を助ける支援グッズ」に参加のお母さん

つつい親がさせたいことを子どもにしがちですが、子どもが自分からしたいことを伝えられるのが大事だということ、よくわかりました。作ったものを見せてもらったりして、わかりやすかったです。いろいろな話を聞いて良かったです。少しずつ絵カードも使ってみたいと思います。

★「コミュニケーション支援～受容～」に参加のお母さん

受講したことで、子どもがパニックになった理由が初めてわかりました。数々の失敗がある中で、親子で良い方法が見つかっていくのだということが心に残りました。

講師お二人の実体験や対応の具体例をお聞きできたこと、本当に良かったです。

★「サポートブック制作会」に参加のお母さん

サポートブックの名前は知っていましたが、参加することでサポートブックの本当の意味を知ることができ、本当に内容の濃いひと時を過ごせました。

実際にパソコンの前に座ってみると、何も思い出せず固まってしまいましたが、スタッフの方や同じ悩みを持ったお母さん方とお話しできたことが何よりも嬉しく、肩の荷が少しおりましたようにも思えました。

★「幼児進路相談会～先輩を迎えて」に参加のお母さん

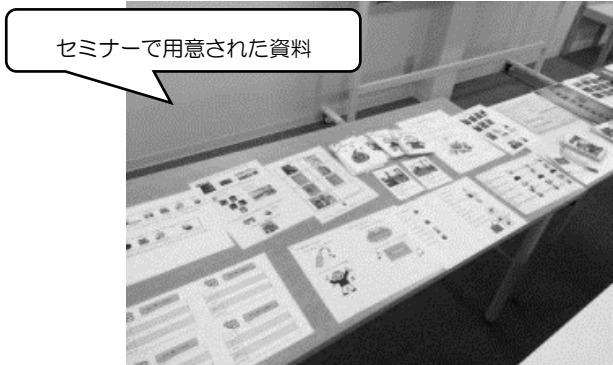
これから小学校入学を考えるにあたって、具体的にどこへ相談したらいいのかなど、流れが確認できて良かったです。

また、先輩から具体的に支援学校・支援学級や通級指導教室の支援について教えてもらえて、とても良かったと思います。

同じ気持ちでいるお母さんたちと情報共有したり、気持ちを分かち合えたりして、とても気持ちが楽になりました。

★「軽度進路相談会～先生・先輩を迎えて」に参加のお母さん

高校卒業後の進路も聞いて参考になりました。子どもにできる限り寄り添って、決めていきたいと思いました。私が、子どもの可能性を狭くしているような気もしました。中3なので今からでは遅いと思いますが、高等部卒業後のことをこれから考えていきたいと思っています。



2：ぱれっと〈なべさんの木曜研修〉

親の会などのリーダーやスキルアップを目指す方を対象に開催する、少人数制の新しいプログラムです。福祉の知識やストレスマネジメントなどの講座を行いました。

■年間実施回数 5回

■年間参加延べ数 69名

| 開催日 | テーマ |
|-------|-------------------|
| 6/25 | 発達障がいの基本知識 |
| 7/9 | 相談支援の基本知識 |
| 9/10 | 家族支援に活用できる支援あれこれ |
| 11/12 | 保育園や学校との関係調整 |
| 12/17 | メンタルヘルスをよりよく保つために |

小さなセミナー

| 開催日 | 形式 | テーマ | 参加者数 |
|-------|------|---------------------------|------|
| 4/16 | 作成会 | 新学期応援！「子ども紹介プリント」を作ってみよう♪ | 4 |
| 4/21 | 座談会 | 先輩からコツを学ぼう～先生との付き合い方 | 4 |
| 5/7 | 座談会 | どうしてる？軽度発達障害のある子どもの学習 | 6 |
| 5/12 | 相談会 | 幼児進路相談会～先輩を迎えて 1 | 10 |
| 5/19 | 相談会 | 幼児進路相談会～先輩を迎えて 2 | 5 |
| 6/4 | 相談会 | 軽度：進路相談会～先生・先輩を迎えて 1 | 7 |
| 6/9 | 座談会 | 困った行動 Q&A ～原因と具体的対応～ | 3 |
| 6/26 | 座談会 | 気になる言葉の発達 | 8 |
| 7/2 | セミナー | コミュニケーション支援 自発 | 10 |
| 9/15 | 作成会 | 自発を助ける支援グッズ 絵カード・コミュブック 1 | 4 |
| 9/17 | 相談会 | 軽度：進路相談会～先生・先輩を迎えて 2 | 8 |
| 9/24 | 相談会 | 自発を助ける支援グッズ 絵カード・コミュブック 2 | 5 |
| 9/29 | 相談会 | 自発を助ける支援グッズ 絵カード・コミュブック 3 | 4 |
| 10/1 | 座談会 | 中学生保護者の座談会 | 3 |
| 10/9 | セミナー | コミュニケーション支援 受容 | 5 |
| 10/15 | 相談会 | 軽度：進路相談会～先生・先輩を迎えて 3 | 6 |
| 10/20 | 体験会 | スケジュール・カレンダーを使ってみよう！ | 6 |
| 11/5 | 体験会 | 理解を助ける支援グッズ 時間・理由・手順・ルール | 7 |
| 11/10 | 体験会 | 自立を助ける支援グッズ 文具・補助具など | 0 |
| 11/19 | 相談会 | 軽度：進路相談会～先生・先輩を迎えて 4 | 3 |
| 11/27 | セミナー | 快適な住まい 本人も家族も楽になる我が家の構造化 | 4 |
| 12/4 | セミナー | 不思議な行動 Q&A ～感覚の違いについて知ろう～ | 4 |
| 1/12 | 作成会 | 自発を助ける支援グッズ 絵カード・コミュブック 4 | 3 |
| 1/14 | 座談会 | 障がい児のいる家族 ～きょうだい 父 祖父母～ 1 | 4 |
| 1/26 | 座談会 | 語ろう！思春期の悩み ～先輩をむかえて～ | 2 |
| 1/28 | 作成会 | 自発を助ける支援グッズ 絵カード・コミュブック 5 | 4 |
| 2/18 | 作成会 | 情報共有ツール「サポートブック」を作ってみよう 1 | 3 |
| 2/19 | 座談会 | 障がい児のいる家族 ～きょうだい 父 祖父母～ 2 | 2 |
| 3/3 | 作成会 | 情報共有ツール「サポートブック」を作ってみよう 2 | 5 |
| 参加者合計 | | | 139名 |

3：あいすてく（あい・ふぁいる活用セミナー）

堺市には、乳幼児期から成人期に至るまでのライフステージに応じて、その情報を記録し、次の機関につなぐことにより、一貫した支援を受けることをめざした「あい・ふぁいる」があります。

無料で配布されているものですが、いざ作るとなるとどう書

けばいいかわからない・・・。そんな声にお応えして、ぴあリーダー（※説明あり）であるちょっと先輩のお母さんが講師をつとめ、ぴーすならではの「あい・ふぁいる」の活用と制作のワークショップを企画／実施しました。

■年間実施回数 1回

■年間利用延べ数 11名

※ぴあリーダー

平成 25・26 年度に実施した堺市の『堺版新しい公共創出事業：障がい児保護者のぴあリーダー養成事業』を受講しぴーすの活動をはじめ堺市のような場で活躍をしている人たち。



4：ぱれっとくiPad わくわく体験会>

ぴーすでは恒例の『iPad を使った支援』について学ぶことができる体験会。平成 27 年度も、iOS アプリ「ぼんぼんわーど 金魚すくいゲーム」のプロデュースを手掛けられた、兵庫県立福祉のまちづくり研究所 中園正吾氏をお招きし、iPad 最新情報と障害のあるお子さん向けアプリの紹介体験会を開催しました。

■年間実施回数 3 回

■年間参加延べ数 11 名



== スタッフより ==

『さわってみよう！iPad わくわく体験会 3/5』の報告です。皆さん iPad 初体験！家電量販店ではなかなかゆっくり触ったり、質問できなかつたり……。だから参加者からは、基本的な操作の質問から、障がいのある子どもの保護者ならではの質問、「絵カードのアプリは？」などまでありました。もっと聞きたい！という意欲が伝わり、時間が足りないくらいでした。

～保護者セミナー 誕生秘話（記：小田）～

私が息子の障がいに気づいたのは 20 年前。どうすればいいか知りたくて、学習会や講演会があると聞けばあちこちに出かけたものでした。しかしその頃は、保護者向けの講演会はほとんどなく、開催地がかなり遠方のこともありとても大変でした。

堺市内でもっとやってくれればいいのに・・・と嘆く私に「自分で講師を呼んでやれば？」と助言する人がいました。もともと企画の仕事をしていた私は、すぐ「できるかも」と思い、実行にうつし、その頃、代表をつとめていたおもちゃ図書館ぼっぼの母たちに参加を呼びかけました。すると、予想を超えるたくさんのお母さんたちが集まりました。

みんなこういう機会がほしいんだ・・・と実感しましたが、でも偉い先生を呼んだり会場を借りたりはお金がかかるし、幼い子がいる母たちが集まるには託児も必要。本番の進行管理するのも大変。だから、一年に一回程度するのが精いっぱいという感じで時間が過ぎました。

数年たち、息子が小学生になった頃、ぼっぼに遊びに来た幼児のお母さんたちから「勉強する場がほしい」と言われ、自分の幼児期の気持ちを思い出し「この気持ちに伝えたい、でも大きな講演会は大変、どうしたらいい？」と悩んだ末に誕生させたのが『幼児の母親向け連続勉強会』です。偉い先生は呼ばず、少し先輩の小学生の母親が講師役を務め、毎月連続で行う。講師は、自分の体験談をふまえ身辺自立や具体的支援など、様々なテーマでお話をする。時には、自分の子どもの映像を見てもらったり、母の心のつらさを吐露し、いっしょに泣いたりもしました。結果、この連続勉強会初年度は、延べ数 300 名を超える参加となりました。

毎月の準備をするのはとても大変でしたが、第一回の講師を務めた 4 名の母の熱意で実現できた勉強会でした。その 4 名の母たちは、全員 NPO ぴーす設立メンバーであり、今も活躍するスタッフで、受講した母たちの多くがぴーすスタッフとなり活躍をしています。連続勉強会はその後、後輩たちの力で継続され、ぴーす設立の時に『ぴーす活動』に組み込まれました。

その〈精神＝こころ〉は、今も小さなセミナーの中でずっと大切にされています。

■■ 相談に対応するもの ■■

ぴーすには、たくさんの『入り口』があります。

ぱれっとのセミナーに参加する人、ぶらむやおもちゃ図書館に親子で遊びに来る人、ぴーすのパンフレットを見て電話をしてくる人、ホームページから問合せをする人、ぽっしえにお買い物に来る人などなど、各活動にいろんな形の『ぴーすの入り口』があります。

どの入り口から入った方でも、各場面で自然に交わされるおしゃべり、何気ない会話があります。それに丁寧に対応することは、大切な支援の1つ。何か困っていることはないか？とアンテナを張って、もし困りごとがあるなら、そのお話をお聞きする。それは、どの入り口でも同様に行われています。

しかし、中には話をお聞きするうちに「これは大変だ！」と気づくケースがあります。また、問合せの段階から対応が難しいケースもあります。

大きな不安や悩みを抱える方にできるだけ対応をしたい。

そう願うぴーすは、平成27年度に「すべての事業・活動で、受けている相談ケースを共有する」ための仕組みをつくりました。その仕組みは、月ごとに良い形に成長しました。これにより、いわゆる「ぴーす内のケースの共有、事業間の連携」が進んだように思います。

平成27年度のぴーすの相談対応について報告します。

▼ 福祉サービスを利用していないケース ▼

1：障害児等療育支援事業

ぴーすのあい・すてーしょんによる相談対応

堺市委託事業であるあい・すてーしょん。

平成27年度は、7つの法人が受託しましたが、その具体的な内容は法人それぞれに独自の形態で実施されています。

ぴーすでは「相談対応」を基本とし、保護者からの相談は

- ・訪問相談 自宅などへ訪問して相談にのる
 - ・来所相談 ぴーす内の施設へ来ていただき相談にのる
- の2つの形で実施しています。

あい・すてーしょんの対象者は、障がいや発達に不安のある児童（0～18歳）のうち、福祉サービス（障害児通所支援、障害児入所支援又は障害福祉サービス等）を利用しないお子さんで、事業の目的は、さまざまな不安を抱えるお子さんの健やかな成長と、地域における生活を支えるための支援を行うというものです。

障がいや発達に不安のあっても、サービス利用をしていない

お子さんは、各年齢にたくさんいます。

例えば幼児期は、発達の遅れがあると発見されても、すぐにサービス利用とはならない場合が多いです。幼稚園などで他児との違いが始め悩む場合もあります。

学齢期になると、「障がいや病気があっても、放課後デイやヘルパーの必要ない。でも、悩みはいろいろあって困ってる。」という保護者も多くいます。

そんな「サービス利用をしていないケース」は、あい・すてーしょんで相談対応をしました。

■年間訪問相談延べ数：18件

■年間来所相談延べ数：235件

ふり返って・・・

受託1年目の平成26年度は、どのような相談が入るかわからないまま開始し、毎日、目の前の相談を必死で対応をしたという1年間でした。しかしこの事業は出来高制の報酬形態となっていて、固定の専従職員をおけずぴーすにある全事業に「あいすて担当者」をおいて対応した結果、どの担当者も疲労困憊してしまいました。

そこで致し方なく、2年目となる平成27年度は、訪問相談可能なぴーすの支援プランセンターに替わって、地域活動支援センターぱれっとが窓口になり、来所相談を中心に対応をすることとなりました。

アウトリーチがしづらいことを心苦しく思いながらもその分、丁寧な対応に力を注いだ1年でした。

▼ 福祉サービスを利用しているケース ▼

2：地域活動支援センターぱれっと

による相談対応

相談をする人にとって、サービス利用うんぬんは関係のない話である！・・・ということで、サービスを利用している子の相談は、ぱれっとの『予約来所相談』で対応をさせていただきました。

特に、最初はあい・すてーしょんで「ぱれっとスタッフに話を聞いてもらった」という保護者にとっては、その後、サービス利用を開始した後も、同じぱれっとスタッフに話を聞いてもらえるのは、安心のようでした。

また、ぱれっとは、ぴーす内の様々な入り口から入った相談の「サービスを利用している場合」の受け皿となり、予約来所での相談を実施しました。

平成 27 年度の相談対応の報告です。

■年間相談数：87 件

3：ぴーすのあい・すてーしょん

による『施設支援指導』での相談対応

ぴーすに相談されるのは、保護者だけではありません。学校やサービス事業所からも、いろんな相談ケースが入ります。

その相談に対応できるのが、療育支援事業の『施設支援指導』です。この形の相談対応は、ケースワークが困難な場合が多く、ぴーすとしては、

- ・本人に関わる担当者を集め、ケースカンファを開催する
- ・詳しい専門家を探して、レクチャーを受ける準備をする
- ・相談者とともに保護者とお会いし、互いのコミュニケーションがうまく運ぶよう支援する

などの形で実施しました。

平成 27 年度の相談対応の報告です。

■年間相談対応数 23 件

▼ ぴーすとサービス利用の契約をしているケース ▼

4：ぴーすの支援プランセンター（略して、ぴーセン）

による 指定相談支援（障害児相談、特定計画相談）

指定相談支援とは

- ・障害のある方やそのお子さんの希望する暮らしを実現させるべくアセスメントを行い、必要な障害福祉サービスの利用を考え、サービスを利用する計画案を作成する。
- ・計画案作成後は、本人・家族に合う事業所を探すなどの事業所調整をする。
- ・サービスの利用状況を確認するために訪問をして、モニタリングを実施する。
- ・複数の事業所等が統一した支援が受けられるよう、サービス担当者会議を開催する

などを行い、ご本人、ご家族のニーズにあった暮らしができるようサポートするものです。

指定相談支援は、利用者との契約で実施され、その利用者（やお子さん）がサービス利用を継続される間（もしくは、利用者がぴーセンとの契約を終了するまで）、ずっとその生活を見守り支援するという、息の長いものです。

ぴーすでは、ぴーすの支援プランセンター（略して、ぴーセン）を「指定相談支援」の事業所として独立させています。これは、相談支援に重要な「中立的な立場」「常に、当事者に寄

り添って、当事者の目線で」を守るため、同じ法人内の事業所であっても、利用者側にたち、利用者の気持ちに寄り添い、支援・対応をしています。時には、ぴーす内の事業所に苦言を呈することもあります。

さて、指定相談支援は、この4年の間に周知も広がり、当センターへの依頼も増え続けました。結果、2年前の26年度は全ての依頼を受ける事ができない状態になっていました。

そこで、平成 27 年度は、相談支援専門員を補助する相談員を増員することにしました。ただし、相談対応は「開始して、すぐできる」というものではない。なので、新人は猛スピードで勉強しながら・・・という状態でした。そんな中で（まだまだ全てのご依頼を受けることがままならない状況ですが）、新規依頼を少しずつ対応させていただく事ができはじめました。

以下が、平成 27 年度の相談支援の報告です。

■年間相談件数 2147 件

■年間契約実人数 150 名（うち、新規6名）

■障害児相談 計画案作成件数 163 件

モニタリング件数 408 件

■特定計画相談 計画案作成件数 17 件

モニタリング件数 53 件

～計画作成、モニタリング以外の相談傾向～

子どもの成長に伴い、家庭内でどう対応したらよいか、特に思春期の子どもに対する悩みの相談が多くありました。保護者の気持ちに寄り添いつつ、利用できる社会資源の紹介、ぴあ相談の紹介、地域生活支援センターに繋ぎ、家庭でできる対応と一緒に考えるという対応を行いました。

学校や幼稚園と連携がとりづらい、対応方法の共通理解が得られないという悩みも、毎年多い相談です。サービス担当者会議で連携しやすい環境を作り、支援の方向性を共通理解するなどの対応を行いました。

5：ぴーすの児童デイによる 利用者への相談対応

ぴーすに3事業所ある「デイ」。そこには、1～18歳までのお子さんがいます。年齢によって保護者の悩みはさまざま。そこで、利用者へ配布しているニュースで「いつでも相談可能」をお知らせし、事業所内相談や家庭訪問相談を実施しました。

平成 27 年度の相談対応は以下のとおりです。

■年間相談対応数：116 件

■ 主に、来所する方への 情報提供 ■

1：生活支援グッズのお店 ぽっしえ

店舗を構えての運営 4 年目の今年度は ①他事業とぽっしえの連携促進をメインテーマに、さらには昨年度からの引き続きで、②店舗でのよろず相談を受ける体制の充実 ③支援グッズの整理 ④提供する情報の内容整理 ⑤ニーズに応じたイベント企画について、充実できるよう活動を行いました。

結果、リピート利用が増えたこと、一回あたりの利用時間が長くなったことについて、手ごたえがありました。

どんな悩みにも寄り添える・暮らしベースの具体的な支援と一緒に考えることができる場所と周知されるようになったと実感しています。

「しゃべりたいから来た〜！」とおしゃべり目的で来店されるリピーターさんも現れ、スタッフ全員にとって、とっても嬉しい出来事でした。これは、来年度のぽっしえの目指すべき方向性を示唆したエピソードとなりました！

■年間利用延べ 1334 人（ネットショップ利用者含む）

■年間販売件数 3551 件



<新規取扱い：順不同>

- ・スイッチヘルパー（システムデザインラボ）
- ・予定シート、ハルさんのスカット、吹き出しパッド（株式会社おめめどう）
- ・魔法の定規（クロスボウ・ジャパン）
- ・PECSコミュニケーション絵カード用インクジェット用紙（エーワン合同会社）
- ・書籍「学校コワイ」（フロム・ア・ビレッジ）
- ・単位下敷き、パルルーベ（共栄プラスチック）
- ・発達障害当事者向け冊子アズウィッシュ 3 部作（こころぴあビレッジ）

<新規取扱い 事例紹介>

新規取扱いの書籍「学校コワイ（税込み価格 1080 円）」は、大阪市教育委員会第 13 回『はーと&はーと』絵本原作コンクールで、奨励賞を受賞した作品です。

スタッフがとあるセミナーで本に出会い、ぽっしえに持ち込んだのがきっかけでした。一般の書店などでは販売されていませんが、著者のよつばもこ氏と取扱い元のフロム・ア・ヴィレッジさまのご厚意により、販売させていただくことになりました。

暖かい配色でとってもやさしいイラストとわかりやすい文章で、発達障がいのある子どもが学校の様々なシーンで、どんな思いをしているかが描かれています。親としては切ない反面、見逃してはいけない大切なことに気づくことができます。



<情報提供：順不同>

- ・インテリアタクト（おうちの構造化お手伝い）
- ・マルチメディア学習システム天神（学習ソフト）
- ・パシフィックサプライ（VOCA／入力補助装置／感覚統合器具）
- ・兵庫県立福祉のまちづくり研究所（知的障害者 暮らしのアイデアブック）
- ・e=AT 利用促進協会（障害のある子どもたちのための携帯情報端末を利用した学習支援マニュアル）
- ・株式会社おめめどう（トータルセミナー等各種セミナー／各種資料・有料ネットサービス）など
- ・発達障害 3 きょうだいを育てる「楽々かあさん」作成の『凸凹変換表&声掛け変換表』

<ぽっしえ出張販売>

ご来店がむずかしい方々にも、いろいろな支援グッズを「見て・触って・知って」もらうように、ご依頼いただいたところへ出張販売させていただきました。また、ネットショップでの販売も継続いたしました。

今年は、障害支援に特化した「なんとカンファレンス」への出店を行いました。支援者の数が多かったためか、全障害種別に関連する支援グッズへのニーズが高かったです。

- ・5/24「第4回ほほえみフェスタ」に出店
- ・8/30「なんとカンファレンス」に出店
- ・11/30 堺市手をつなぐ育成会講演会に出店

<ぼっしえ年間活動概要>

| | |
|-----|-------------------------|
| 6月 | ゆっくりくつろぎの場「つどいのテーブル」を設置 |
| 7月 | 大阪樟蔭女子大学女子大生のぼっしえ見学対応 |
| 9月 | 感覚グッズフェア |
| 10月 | 2016年度版ビニールポケットカレンダー入荷 |
| 12月 | カレンダークリスマス |
| 1月 | カレンダーお年玉セール |
| 2月 | 進学進級応援フェア |
| 3月 | 次年度店舗改装および活動計画 |

2：ばれっとく展示・啓発掲示板コーナー>

シーズンごとの障害に関するテーマを、掲示板にて啓発しているコーナーです。

ばれっと待合ホールにあるので、来所していただいたついでにご覧いただき、お持ち帰り用の資料も用意しております。おもちゃ図書館ぼっぼや研修、セミナーにお越しくださった、たくさんの方にご利用いただきました。

| 月 | 内容 |
|---------|---|
| 4月・5月 | 「新生活お役立ちグッズ&資料」ぼっしえのグッズ、おめめどうの新生活へのアドバイス。 |
| 6月 | 「異才発掘プロジェクト ROCKET」の新聞記事を紹介。 |
| 7月・8月 | 「夏のおでかけ情報」スタッフの夏のエピソードやアドバイスも盛り込んで。 |
| 9月・10月 | 「異才発掘プロジェクト ROCKET」がTV番組で紹介されたため再度紹介。 |
| 11月・12月 | 「ばれっとのオススメ書籍」ぴーすのメルマガ「今月のピックアップ書籍」より紹介。 |
| 1月・2月 | 「防災～今こそ備える～」子ども防災ワークショップの模様や防災ワッペン、書籍など。 |
| 3月 | 「世界自閉症啓発デー」子どもたちの笑顔の写真とともに自閉症の啓発書籍などを紹介。 |

＝ 担当者より ＝

ばれっとに入っただけにある啓発掲示板。ばれっとの看板娘のような存在を目指し、明るく楽しく皆さまのお役にたてるものにしたいと、試行錯誤してきました。保護者の方や支援者

の方はもちろん、子どもたちにも楽しそうに見てもらえたことが、何より励みになりました。28年度も皆さまに愛される掲示板を目指します！

3：ばれっとく図書/資料（閲覧貸出）情報コーナー>

障害に関する書籍を誰でも自由に閲覧、借りることができるコーナーです。

発達障がいや知的障がいについて学ぶ書籍を中心に、専門的なものからマンガまで各種取り揃えています。

他にも、関係団体の会報誌や雑誌、行政などで作成された障害に関する啓発物なども自由にご覧いただけます。



平成 27 年度に人気だったのは「図解 よくわかる自閉症」でした。

■■ 主に、インターネットなどでの 情報提供 ■■

障がい児やその家族の暮らしに役立つ情報を、メール(パソコンや携帯)などを利用して提供しています。

具体的には、以下の3つの方法で行っています。

4：メールニュース<ふぁにい>

火曜～土曜までの毎日、携帯やパソコンへのメールニュースを配信。生活に密着した情報をタイムリーに届けることができる「欲しい情報が欲しい時に手に入る」ニュースです。

■年間配信数 370 件（月平均配信数 30 件）

※詳細は次ページ

■記事内容（抜粋）

- ・福祉行政制度…障害者総合支援法、一部が改正・堺市 教育に関する相談、悩みや心配事の相談機関
- ・民間の社会資源…災害伝言ダイヤル
- ・お得情報/障害割引情報…青い鳥郵便はがきの無償配布のお知らせ・JR 鉄道運賃
- ・余暇（おでかけ・エンタメ・文化活動・イベント情報）…トイトイパーク・発達障がい者くらし市
- ・セミナー/講習会/学習会…障がい児者性教育セミナー・自閉症スペクトラム障がい講座
- ・書籍/番組/モノ等の紹介…ハートネット TV
- ・ぴーすからのお知らせ…出前あい・ふぁいるセミナー・ぼっしえ・ぷらむ・小さなセミナーなど企画もの

== 担当者より ==

今年度は利用者様から「こんなことを知りたい!」「安心して子どもと遊べる場所があるかな?」と要望を聞く機会が多かったです。どのような情報を必要とされているのかを改めて把握し、また季節感を考えて配信した一年でした。配信スタッフも利用者様と同じびあの立場なので、よりニーズに合った情報をキャッチし、今後もバラエティに富んだ内容を配信していきたいと思えます。

5: ブログ <http://sakai-comcom.net/p-s/>

ぴーすのホームページでブログを更新。

ぱれっとの活動内容を含め、ぴーす事業・活動の様子をタイムリーに配信しました。

■年間アップ数 132 本

6: ぴーすのホームページ <http://p-s-sakai.net/>

ぴーすへ電話くださった利用者によるその経緯をお訪ねすると、「ネット検索でHPを見つけ、電話しました。」との答えを頂くことがたびたびありました。ブログ同様、最初の情報提供の場として、重要な媒体です。

7: ぴーすのフェイスブックページ  [Npo法人ぴーす](#) 

「ぴーすのフェイスブックページ」を作成しました。個人や他団体とのつながりを深めるとともに、情報発信・収集・近況報告を目的に活用いたしました。

7: 「生活支援グッズのお店 ぽっしえ」のウェブサイト

▼ぽっしえネットショップ <http://ps-poche.shop-pro.jp/>

「広く支援グッズを知ってもらおう・いつでも便利に購入できるシステム作り」を課題として、インターネットショップを2015年4月1日より開始いたしました。

今年度も引き続きたくさんの方にご利用いただき、全国津々浦々から閲覧していただけるようになりました。「実店舗がある、店長の顔が分かるから安心」という声や、ネット注文後に「実際に行って、お話ししたかった。」と来店されるケースもありました。

▼ぽっしえのブログ <http://ameblo.jp/pspoche/>

ネットショップの支援グッズを、さらにわかりやすくご紹介するためのツールとして、今年度より開始しました。ぽっしえに集まってくる「支援グッズ」の情報はたくさんあります。今後は、ぽっしえで取り扱わない支援グッズや支援技術情報などのプラットフォーム的な役割を担うサイトにしていきたいと思えます。

▼ぽっしえのフェイスブックページ  [生活支援グッズのお店 ぽっしえ](#) 

「ぽっしえのフェイスブックページ」を作成しました。個人や他団体とのつながりを深めるとともに情報発信・収集・近況報告を目的に活用いたしました。

| メールニュース ふぁにの詳細 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-------------------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 配信合計本数 | 31 | 35 | 38 | 36 | 27 | 25 | 29 | 31 | 29 | 28 | 29 | 32 | 370 |
| 福祉行政制度 | 1 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 2 | 1 | 11 |
| 民間の社会資源、療育 | 0 | 4 | 0 | 3 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 0 | 1 | 2 | 17 |
| お得情報/障害割引情報 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 余暇 お出かけ情報 | 1 | 2 | 0 | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 | 4 | 2 | 1 | 5 | 21 |
| 余暇 文化活動、教室 | 2 | 0 | 3 | 6 | 1 | 3 | 1 | 0 | 1 | 2 | 2 | 1 | 22 |
| 余暇 イベント | 3 | 2 | 4 | 9 | 4 | 6 | 4 | 5 | 1 | 1 | 3 | 2 | 44 |
| セミナー/講演会/学習会 | 7 | 13 | 11 | 8 | 8 | 1 | 8 | 12 | 6 | 11 | 10 | 11 | 106 |
| 書籍/番組/モノ等の紹介 | 10 | 5 | 5 | 5 | 2 | 6 | 3 | 1 | 2 | 3 | 5 | 4 | 51 |
| ぴーすからのお知らせ | 5 | 8 | 13 | 2 | 9 | 7 | 6 | 11 | 12 | 9 | 5 | 6 | 93 |

エンドユーザーである子どもたちが『自分らしく生き生きと暮らせる社会』をつくっていくために・・・、ぴーすは啓発活動を大切にしています。

また、1つ1つのケースワークや活動を促進するためにも、関係機関との連携は必須です。

そんな市民・地域への啓発、関係機関との連携を目的に、ぴーすは保護者勉強会の企画協力や、外部団体主催の講演へ講師を派遣したり、福祉施策等情報収集のための外部団体会議への

委員派遣、各種団体との協働などを実施しています。

■■ 講演などへ、講師を派遣したもの ■■

講演を依頼される内容は、障がい児を日々支援する『支援者としての話』もあれば、『保護者としての体験談』や『当事者目線の啓発講演』などもあります。

さまざまな依頼を受け、理事長：小田をはじめ、そのテーマに即した講師をえらび、派遣をしました。

平成27年度の実施内容は以下のとおりです。

▼母親として『体験談』を届けたもの

| 派遣日 | 主催 | 対象 | 講演テーマ |
|----------------|-----------------|------|-----------------------|
| 9月3日 | えのきはいむ主催 保護者学習会 | 保護者 | 「これまでの子育てを振り返って」 |
| 9月7・8・9・10・11日 | めだか親子教室 保護者学習会 | 保護者 | 「先輩保護者による子育ての体験談から」 |
| 12月12日 | リビングライブラリー | 一般市民 | 語り部 参加 |
| 2月2日 | 堺市難病支援センター | 保護者 | 「語り合おう・つながろう 子育てあれこれ」 |

▼障がい児の保護者（母親）を支援することについて

| 派遣日 | 主催 | 対象 | 講演テーマ |
|--------------|-----------------------------|-----|-------------------------|
| 8月26日 | 堺市子育て支援部幼保推進課 | 支援者 | 「障害を持つ子どもの保護者支援について」 |
| 9月14日 | 堺市家庭児童相談室 | 支援者 | 「発達障がいを持つ子どもとその保護者への対応」 |
| 3月16日 17日 | 堺市子ども家庭課 あい・さかいサポーター養成研修 | 支援者 | 「あい・ふぁいと保護者支援」 |

▼障がいの理解、支援のコツなどについて

| 派遣日 | 主催 | 対象 | 講演テーマ |
|--------|-------------------------|--------|-----------------------------------|
| 4月21日 | 関西医療大学 保健看護学科 | 大学生 | 「障がいを支援する～ひとを支える～」 |
| 7月31日 | 大阪樟蔭女子大学 児童学部児童学科 | 大学生 | 「ICFと支援グッズ」 |
| 9月15日 | 大阪府立堺東高等学校 | 高校生 | 「ダウン症のひとってどんな人？」 |
| 11月4日 | 大阪府立堺東高等学校 | 高校生 | 「障害のある子どもたちと向きあう」 |
| 11月10日 | 堺市ファミリー・サポート・センター | 子育て支援者 | 「障がいをもつ子どもの理解について」 |
| 11月27日 | 大阪市社会福祉研修・情報センター | 一般市民 | 「障がいのある子どもから見える世界の理解と具体的な支援」 |
| 12月23日 | 学校法人日本放送協会学園 NHK 学園高等学校 | 一般市民 | 「不登校を考える～型どおりに育てにくい子をたのしんで育てるコツ～」 |

▼障がい児の福祉制度について

| 派遣日 | 主催 | 対象 | 講演テーマ |
|-------|----------------------------------|-----|-----------------------------------|
| 8月17日 | 堺市教育委員会 特別支援グループ | 支援者 | 「放課後等デイサービスについて」 |
| 2月28日 | 堺市発達教育相談連合会 2016年度発達・教育・就学相談会 | 保護者 | 「障がいのある子が利用できるサービス～ステキな大人になるために～」 |

▼障がい児の相談支援や、相談対応について

| 派遣日 | 主催 | 対象 | 講演テーマ |
|--------|-----------------|-----|-----------------------------------|
| 7月17日 | 堺市障害者相談支援専門員 | 支援者 | 7月定例会「発達障害児者への支援事例」 |
| 12月25日 | 社会福祉法人堺市社会福祉協議会 | 支援者 | 「まき込み上手のコツを知る～協働の必要性和ネットワーキングの実際」 |

▼あいふぁいる 活用セミナー

| 派遣日 | 主催 | 対象 | 講演テーマ |
|--------|-------------------|-----|------------------------------|
| 6月22日 | 堺市立上神谷支援学校 中学部3年 | 保護者 | 「あい・ふぁいる活用出前セミナー」 |
| 10月14日 | 堺市立久世小学校 支援学級 保護者 | 保護者 | 「あい・ふぁいる活用出前セミナー」 |
| 3月1日 | 堺市 子ども家庭課 | 支援者 | 「あい・ふぁいる活用セミナー～つながろう、つなげよう～」 |

▼支援グッズなどについて

| 派遣日 | 主催 | 対象 | 講演テーマ |
|-------|------------|------|----------------------|
| 8月30日 | なんとカンファレンス | 一般市民 | 「障害のある人と最新のICT支援技術他」 |

▼障害者（児）の防災について

| 派遣日 | 主催 | 対象 | 講演テーマ |
|-------|----------------|------|--------------------------|
| 8月22日 | 大阪府精神障害者家族会連合会 | 家族 | 「障がい児・者家族に伝えたいこと～災害に備えて」 |
| 2月23日 | 大阪市西区社会福祉協議会 | 一般市民 | 「障がい者・児と地域・家族の防災を考える」 |

▼その他

| 派遣日 | 主催 | 対象 | 講演テーマ |
|-------|-----------|------|--------------------------|
| 2月13日 | 堺市障害施策推進課 | 一般市民 | 堺市障害者差別解消推進フォーラム パネリスト |
| 3月14日 | 堺市市民協働課 | 一般市民 | NPO法人×企業のマッチングイベント パネリスト |

■■ 他機関・団体との協働、協力をしたもの ■■

ぴーすは、幅広くさまざまな方たちとおつきあいをしています。その「おつきあい」の中で、協働・協力を依頼されることも多く、施設の視察に来られる方もいます。

今年度も、ぴーすのおつきあいの輪が広がることが、子ども

たちの良い環境づくりにつながりと考え、出会いを大切に、いろんな方たちのおつきあいを深めました。

平成27年度の内容を報告します。

啓発や連携をするもの

広める・つながる支援

▼外部へ、出展などの協力をしたもの

| 派遣日 | 主催と場所 | 対象 | 講演テーマ |
|------------------|---------------------------|------|---------------------|
| 5月24日 | レインボーシード 和泉シティプラザ | 一般市民 | 第4回ほほえみフェスタ 支援グッズ展示 |
| 10月18日 | 百舌鳥梅町3丁目自治会 百舌鳥梅町3丁集会所 | 地域住民 | 第21回文化祭 出展 |
| 12月16日～2 月28日 | 人と防災未来センター 神戸市にあるセンター内 | 一般市民 | 減災グッズ展 展示協力 |
| 1月25日 | つぼみ園保護者会 つぼみ園 | 保護者 | 主催コンサート（演目手配のサポート） |
| 1月30日～ 2月5日 | 地域活動支援センターの集り 堺市役所本館 | 一般市民 | 地域活動支援センター紹介 パネル展示会 |

▼ぴーす内の施設・事業の視察

| 派遣日 | 依頼者 | 種類 | 講演テーマ |
|--------|-------------|-------------|----------------------|
| 5月19日 | すこやかな生活を送る会 | 児童通所サービス事業所 | ぴーすの児童デイぱんだ 見学対応 |
| 8月26日 | 堺市北区地域福祉課 | 行政 | 地域活動支援センターぱれっと 見学対応 |
| 2月9日 | はないちもんめ | 有償ボランティア | 地域活動支援センターぱれっと 見学対応 |
| 3月4日7日 | NPO 法人み・らいず | 児童通所サービス事業所 | ぴーすの児童デイぱんだ・ぴころ 見学対応 |
| 3月8日 | 個人（事業開始準備中） | 支援者 | 地域活動支援センターぱれっと 見学対応 |

▼来所にての、ヒアリングに協力したもの

| 派遣日 | 依頼者 | 種類 | 講演テーマ |
|--------|------------------------|-----|--------------------------------|
| 11月26日 | 堺市市民協働課 | 行政 | 市民活動促進に関する基本方針改正に係るヒアリング調査 |
| 1月20日 | 障害者更生相談所 | 行政 | 更生相談所に求められる地域連携および協働についてのヒアリング |
| 1月25日 | さかいチャイルドサポーター 研修事務局 | 支援者 | フィールドワーク「放課後等デイサービス事業の実際」 |

▼メディア取材など

| 派遣日 | 主催 | 種類 | 講演テーマ |
|-------|------------|-----|----------------------------|
| 5月8日 | NHK 大阪放送 | テレビ | バリバラ 取材協力 |
| 5月28日 | 大阪府社会福祉協議会 | 機関紙 | おめめどうグッズとコミュニケーション支援について取材 |

▼その他

| 派遣日 | 依頼者 | 種類 | 講演テーマ |
|-------|---------------|-------|-----------------------|
| 6月13日 | 全国手をつなぐ育成会連合会 | 障害者団体 | 指導誌『てをつなぐ』の本人コラムの原稿協力 |

| 派遣日 | 依頼者 | 種類 | 講演テーマ |
|------|----------------|----|---|
| 月に一回 | キッズサポートセンターさかい | 企業 | 研修、堺市にある社会資源の見学対応、相談スタッフ面談、キドキド体験会実施協力および助言 |

■■ 会議や集まりの一員として参加したもの ■■

ぴーすのスタッフや事業所は、さまざまな立場で団体や協議会、ネットワークなどに参加しています。

平成27年度のに参加等したものは以下のとおりです。

- ・ 特定非営利活動法人 堺障害者団体連合会
理事会／国会懇談会-／新春交流会
- ・ 堺市手をつなぐ育成会
役員会／成人部会
- ・ 堺市 障害者施策推進協議会
- ・ 堺市 障害児支援専門部会
- ・ 堺市 発達支援者支援専門部会
- ・ 堺市 第3次地域福祉計画 懇話会
- ・ 堺市社会福祉協議会 第5次地域福祉総合推進計画
懇話会



- ・ 特定非営利活動法人 堺市相談支援ネット
総会／会員交流会・懇親会
- ・ 社会福祉法人 大阪手をつなぐ育成会
支部代表者連絡会／権利擁護部会／役員会／理事会
- ・ 地域活動支援センター Bタイプ 情報交換会
- ・ さかい障がい児放課後連絡会
全体会議/行政・渉外委員会/研修委員会
役員会/代表者

～ぴーすに入る『講演依頼』の動向（記：小田）

講演の依頼は、ぴーす設立当初より、毎年コンスタントに依頼をいただいています。しかしその内容は、その年度の社会の状況により、ずいぶん差があります。

例えば、東日本大震災の翌年は、防災に関する講演依頼が殺到しました。大きな災害によって各地で防災意識が強まり、それがぴーすへの講演依頼につながったと思います。が、残念なことに、それから5年が経過し、防災関係の講師やワークショップの依頼数は減りました。平成27年度は2件のみ。東日本大震災の翌年は、毎週のように講演に走り回ったことを思うと、地域社会が防災意識を持ち続けることの難しさをひしひしと感じる結果となりました。

代わってこの2年、どんどん増えているのが『障がいのある児童を支援する』というテーマでの依頼です。具体的な依頼内容は、児童の制度、児童の相談、児童保護者の支援など、中身は微妙に違うものの、平成24年度に障がい児の支援が児童福祉法に変更されたことで、一気に障がい児支援に携わる人たちが増えたことが影響しているように思います。このような依頼は、次年度も継続すると思われます。法人設立以前より『障がいのある子ども』に特化して支援活動をしてきた私たちは、この『社会のニーズ』に応えられるよう、日々ニーズと向かい合い知識を深めるよう精進をしなければと思っています。

また、前月4月に起こった熊本地震。防災をテーマに活動をしているぴーすにとっては「この地震でまた苦しむ障がい児者と家族がいる」ことは大変心痛いことです。が、東日本大震災の時と同様、その苦しみを次の世代に伝えるためにも、高まるであろう『防災意識』という社会ニーズに応えていけるよう、努力する所存です。

たかが障がい児母親の「お話」ですが、暮らしでの経験があるからこそ『想い』を届けられると信じ・・・、微力ながらも啓発活動を続けていこうと思っています。

その他

■■ ぴーすの職員が受講等した研修 ■■

▼法人内研修

| 実施日 | 研修テーマ | 対象 |
|----------|-------------------------------------|------|
| 6/2 11/6 | ぴーすの事業 ミッション ICF 新しい障がい観と支援 障がい特性理解 | 新人職員 |
| 6/25 | 発達障害の基礎知識 | 一般職員 |
| 7/2 | コミュニケーション支援 自発 | 一般職員 |
| 7/9 | 相談支援の基礎知識 | 一般職員 |
| 9/10 | 家族支援に活用できる支援のあれこれ | 一般職員 |
| 10/9 | コミュニケーション支援 受容 | 一般職員 |
| 10/22 | 苦情対応 虐待防止 | 全職員 |
| 11/5 | 理解を助ける支援グッズ：時間・理由・手順・ルール | 一般職員 |
| 11/10 | 自立を助ける支援グッズ：文具・補助具など | 一般職員 |
| 11/12 | 保育園や学校との関係調整 | 一般職員 |
| 11/27 | 快適な住まい 本人も家族も快適になるわが家の構造化 | 一般職員 |
| 12/4 | 不思議な行動 Q&A | 一般職員 |
| 12/17 | 発達障がいの子どもの家族・支援者のメンタルヘルス | 一般職員 |
| 1/21 | メンタルヘルスをよりよく保つため | 一般職員 |

▼法人外研修

| 実施日 | 研修テーマ | 主催者 |
|-----------------------------|---------------------------------|-------------------------|
| 5/20 | 指定障がい福祉サービス事業者等指定時研修 | 大阪府福祉部障がい福祉室 |
| 5/27 | 障害福祉サービス費等の請求事務の留意事項について | 大阪府国民健康保険団体連合会 |
| 5/28 | いわゆる「問題行動」と障がいの特性 | さかい障がい児放課後連絡会 |
| 6/3 8/31 11/30 3/16 3/17 | あい・さかいサポーター養成研修 | 堺市子ども家庭課 |
| 6/9 | 計画相談支援 障害児相談支援について | 堺市手をつなぐ育成会 |
| 7/12 | より良い支援のため | 日本ヘルパー協会おおさか |
| 7/15 | 救命救急講習会 | 堺消防署 |
| 8/2 10/4 | コミュニケーションラボ 具体的、視覚的、肯定的なサポート方法 | NPO法人ファミリーコミュニケーション・ラボ |
| 8/26、27 9/3、4、25 | 大阪府障がい者福祉事業団 相談支援従事者研修①②③④⑤ | 大阪府障害者福祉事業団 |
| 8/28 | NPO 事務局が知っておきたいこと「一年の流れと6つの基礎」 | 堺市市民活動コーナー |
| 9/16 | 危機管理とリスクマネジメント | さかい障がい児放課後連絡会 |
| 9/24、12/19 | PECS レベル1 重い障がいのある人のコミュニケーション支援 | ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン（株） |
| 9/27 | チットチャットスポーツ塾 発達障がい児の為にスポーツ指導入門 | チットチャットスポーツ塾 |
| 10/4 | 堺市 障がい者虐待防止啓発セミナー | 堺市 |
| 10/13 | さかい障がい児放課後連絡会 事故虐待防止 | さかい障がい児放課後連絡会 |
| 10/18 | ポーラーJプログラムの基礎と応用 | 東洋大学人間科学総合研究所付設発達臨床相談室 |

その他

| 実施日 | 研修テーマ | 主催者 |
|--------------|--|---------------------|
| 10/20 | 大阪府サービス責任者等研修 | 大阪府社会福祉協議会 |
| 10/30 | 子どもの「読む力」「書く力」の理解とその指導 | 大阪医科大学LDセンター |
| 11/2、26、27 | 相談支援従事者現任研修①②③ | 大阪府障害者福祉事業団事務局 |
| 11/17、18 | 大阪府サービス管理責任者等研修 | 大阪府社会福祉協議会 |
| 11/19 | 今すべき「マイナンバー制度」はこれだ。 | 大塚商会 |
| 11/21 | TEACCH プログラム研究会 大阪の就学前療育と行政の今 | TEACCH プログラム研究会大阪支部 |
| 11/23 | 「関係性づくり「瞬間対応型アドリブ指導」 | チットチャットスポーツ塾 |
| 11/25、12/2、9 | 「聴き上手」になるための傾聴入門 | A ワーク創造館 |
| 12/5、6 | 「アセスメントと支援提供の基本姿勢・事例研究」 「事例研究とマネジメント実際演習」 | 大阪府社会福祉協議会 |
| 12/14 | 「障害者虐待防止の理解」 「大阪府における障がい者虐待防止、対応の現状」 | 大阪府福祉部障がい福祉室 |
| 12/14 | 堺市の障害児教育の現状について | さかい障がい児放課後連絡会 |
| 1/25 | 障害福祉施設におけるボランティア活動の輪を広げる方法 | 堺市立健康福祉プラザ市民交流センター |
| 2/9 | 「事業の適正化」についてグループディスカッション | さかい障がい児放課後連絡会 |
| 3/9 | 「子どもの行動を理解する」ペアレントトレーニングの手法 | 堺市子ども家庭課 |
| 2016.1/16 | 「何気ない一言」で変える。隠れファシリテーター入門講座 | A ワーク創造館 |

■■ NPO 法人ぴーすの会議 ■■

▼平成27年度 総会 1回

5月22日（金）10：30～12：00

出席者10名（内委任状出席者1名）

▼平成27年度 理事会 4回

5/22、10/2、11/6、2/5

特定非営利活動法人ぴーす 平成27（2015）年度 事業報告書

発行：平成28年5月20日

発行責任者：理事長 小田多佳子

発行 者：NPO 法人ぴーす 事務局

〒591-8032

大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁39-32

電話：072-250-9060

FAX：072-250-9061

Mail：p-office@p-s-sakai.net

とても分量の多い報告書を
最後までお読みくださって
心から感謝します。
ありがとうございました。



平成27年度 年間利用者実数・延べ数・活動数等 集計

▼地域活動支援センター ぱれっと

| | 回数 | 人数 |
|---------------------------|-----|------|
| よろず相談・情報提供（プログラム利用等経由） | 254 | 455 |
| 個別来所相談（予約等） | | 87 |
| 居場所提供：自主活動サポート（ぴっぴ・その他） | 254 | 1393 |
| 北原なるみの世界 | | 45 |
| さをり織り「豊明の世界展」 | | 78 |
| 啓発/余暇情報等仲間づくり | 254 | 51 |
| 親子広場プリズム | 58 | 68 |
| おもちゃ図書館ぽっぽ | 13 | 160 |
| しゃべり場 | 47 | 214 |
| 小さなセミナー | 29 | 139 |
| 木曜研修 | 5 | 69 |
| 【特別開催】iPad&支援機器体験会 | 3 | 11 |
| 【特別開催】こども防災ワークショップ | 2 | 11 |
| 【特別開催】軽度発達障がい児のためのワークショップ | 1 | 8 |
| 合計 | 920 | 2789 |

A = 年間のべ活動回数 B = 年間のべ利用者数 A B

| | |
|------------|------------|
| 契約登録者数 | 63 |
| 上記以外の利用実人数 | 574 |
| 合計 | 637 |

▼キッズサークル ぷらむ

| | |
|----------|-----------|
| 鉄道クラブ | 863 |
| マラソンクラブ | 206 |
| 親子プログラム | 91 |
| 特別企画ほか | 171 |
| 自主いるか | 134 |
| 自主カラフル | 12 |
| 自主ポップ | 7 |
| 自主みりゆり | 42 |
| 年間のべ利用者数 | 1526 |
| ぷらむ利用実人数 | 99 |

▼生活支援グッズのお店 ぽっしえ

| | |
|-------------|------|
| 年間 店舗のべ利用者 | 455 |
| ネットショップ利用件数 | 879 |
| 販売件数 | 3551 |

▼NPO活動関係事業 集計

| | | |
|--------------|-------------|------|
| 年間利用実人数 総合計 | 736 | ※の合計 |
| 年間のべ利用者数 総合計 | 4770 | 人 |

★ぴーすからの情報発信

| 月 | ニュース ふぁにい | メール マガジン | ブログ |
|----------|--------------|-------------|------------|
| 4 | 31 | 1 | 17 |
| 5 | 35 | 1 | 21 |
| 6 | 38 | 1 | 21 |
| 7 | 36 | 1 | 24 |
| 8 | 27 | 1 | 12 |
| 9 | 25 | 1 | 32 |
| 10 | 29 | 1 | 32 |
| 11 | 31 | 1 | 17 |
| 12 | 29 | 1 | 24 |
| 1 | 28 | 1 | 16 |
| 2 | 29 | 1 | 12 |
| 3 | 32 | 1 | 16 |
| 合計 | 370 | 12 | 244 |
| 年間合計発信総数 | | | 626 |

★NPO法人の会員

| | |
|-----------|-----|
| ぴーす正会員 | 11 |
| ぴープレミアム会員 | 108 |
| 合計 | 119 |

■ぴーすのあい・すてーしょん

| | のべ利用 | 児の実人数 |
|-----------|------|-----------|
| 療育支援 相談件数 | 276 | 64 |
| 特別支援 利用者数 | 150 | 7 |
| 合計 | 426 | 71 |

■ぴーすの支援プランセンター

| | |
|-----------|------------|
| 年間 相談件数 | 693 |
| 年間 利用契約者数 | 151 |

■放課後等デイサービス及び児童発達支援

| | ぱんだ | ぽんた | ぴころ |
|------------|-----------|-----------|-----------|
| 児童発達支援 | 2 | 0 | 38 |
| 放課後等デイサービス | 34 | 31 | 13 |
| 年間契約者 合計 | 36 | 31 | 51 |
| 年間 延べ利用数 | 2101 | 1686 | 1957 |

■指定事業等関係事業 集計

| | | |
|-------------|-------------|------|
| 年間利用実人数 総合計 | 340 | ※の合計 |
| 年間利用延べ数 総合計 | 6863 | 人 |